

# branch / forest

OHMURA Daigo works

大村 大悟 展

2012年4月17日[火] — 29日[日]  
11:00～19:00 \*月曜休廊・最終日18:00迄

大村大悟は作品として、ただの木の棒やラグ、折りガラスなど、一見すると何気ない、ただの既製品に過ぎないようなものを提示します。しかし、これらはいずれも大村自身の手が加えられたものであり、目の前に提示された「もの」は、それぞれが過程と背景を持つ造形物であるといえます。

大村は「もの」に最小限の手を加えることで、そこに在る要素を少しだけ際立たせ（あるいは削り取り）ます。それにより放たれる微かな違和感は、「もの:状況」に目を凝らすきっかけとして作用するとともに、鑑賞者の「想像」が入り込む余地として様々なイメージの喚起を促します。

「branch / forest(枝 / 森)」は、「木を見て森を見ず」の諺から大村が起想したのですが、それは木(枝)と森といった「対比」を目的とするものではなく、「目の前の木」と「想像の森」、つまり「知覚(目に見えるもの)」と「認識(イメージするもの)」との間にある「幅」そのものについて触れるものです。

提示されたひとつの「木の棒」が、鑑賞者それぞれの記憶・経験などの影響を受けながら様々に枝分かれし、多様な認識・イメージの森へと目を向けさせる目論見によるものです。

## 【作家略歴】

### 大村 大悟 OHMURA Daigo

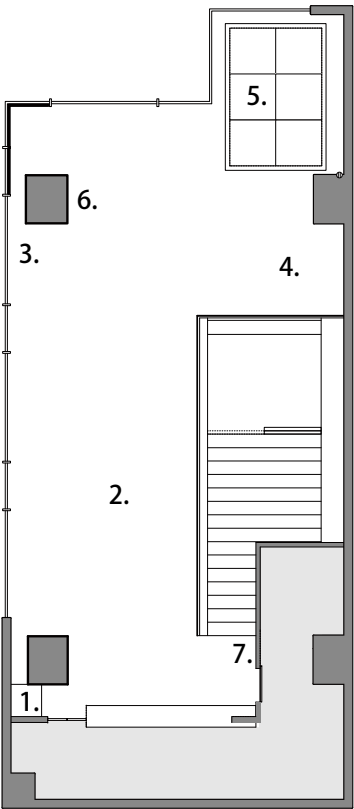
1984 石川県生まれ  
2007 成安造形大学 造形学部造形美術科 卒業

#### 個展

2008 time・point of view (GALLERY wks./大阪)  
2007 rich farmland (立体ギャラリー射手座/京都)

#### グループ展・公募展

2011 Eutectic-Eutectoid (Artislong Gallery/京都)  
2010 主張展 (Artislong Gallery/京都)  
- sowaka clip9 (gallery sowaka/京都)  
2009 Emotion release (ギャラリーアートサイト/滋賀)  
- しがアートフェスティバル2009 (滋賀会館/滋賀)  
- MASSIVE PROGRESSION (Artislong Gallery/京都)  
- Magnet design exhibition tour 09 (兵庫県立美術館/兵庫)  
2008 Art Camp 2008 (サントリーミュージアム[天保山]/大阪)  
- 現代彫刻展vol.2 (吹田市文化会館MAY THEATER/大阪)  
2007 彫刻 包摂される空間 (ギャラリーアートサイト/滋賀)  
- 艶展 (gallery ryo/大阪)  
2006 湖族の郷アートプロジェクト (伊豆神社境内/滋賀)  
- アートナウKANAZAWA (金沢21世紀美術館/石川)  
2005 現代への視点vol.10 (守山市民ホール/滋賀)



- |                                 |            |
|---------------------------------|------------|
| 1. invisible hand               | 石膏         |
| 2. empiricism                   | 麻ロープ       |
| 3. ガラス                          | ガラス        |
| 4. 座る人の椅子                       | 木          |
| 5. untitled                     | 金、ブロンズ、石、蠟 |
| 6. chart / vektor (チャート / ベクトル) | 木、樹脂塗料     |
| 7. 道具の話                         | 木          |

## 【道具の話】

どこだったか南の島国には「夜這い棒」という道具があるらしい。

夜這いとは、男性が女性の元へ夜な夜な忍び寄るという、あの夜這いのことなのだが、その島の男達は日中いつも各々が独自の彫刻を施した、人の丈ほどもある夜這い棒を持ち歩いている。夜になると萱葺き高床式の女性達の建物へ行き、意中の女性の居る所の床や壁に夜這い棒を突き刺し合図するのだ。起こされた女性は、好きな男だったら(その気があったら)夜這い棒を引っ張って「OK」の合図を出し、こっそり家から出る。

こういった話をしていたら、日本にも昔はあったという話を知人から聞いた。年配の人達の話では、「何本か見たことがある」「もっと細くて短かった」「家の中で使うはず」「今も夜這い祭りで使う」と。現代の一般的価値観から言えば想像しにくい話だが面白みのある話ではある。

人によって違う、価値観やものの見方について考えたいと思います。

大村大悟

アダム・スミスは「国富論」で、全ての人が利己的であっても経済社会は合理的に機能するという理論を、ダーウィンは「種の起源」で自然淘汰による固体から種への進化の過程を論じた。いずれも、大きな流れを形づくるのは一見混沌とした小さな選択であり、その選択は流れの方向性を想定して成されたものではない。細かいものを摘む様な形が、お金を表す形にも仏の手の形にも見える。

invisible hand

気付くことと気付かないこと。複雑な社会に生きる私たちにとって、聞こえてくる情報だけで何が正しく何が間違っているのか、判断することは容易ではない。誰かが築き上げてきた不確かなものの上に立っているように感じる時がある。

empiricism

ガラスの向こう側。折りガラスは表面に無数の微細な傷が付いている。私にとってガラスは硬く、石に近いもののように感じる。人為的な力が加わらなければ、人の一生の内では変化がみられないものではないだろうか。ガラスは無機質で不変的な、意識する必要のないものの代表格のように思う。

ガラス

子供の頃、「どこにでもすぐ座るのはやめなさい」と叱られたことがあった。小さい頃はテーブルや道端の縁石も座りやすい高さだったのだが、尻を置くものじゃない場合や尻が汚れる場合があった。相対的な関係を知ることの積み重ねで、ものの価値を学んでいった気がする。どこにでもある既製品の椅子と、自作椅子を置いてみる。

座る人の椅子

何かに見立てた駒で考えごとをしたり、無意識に置かれたものの配置を意識し直してみることにとはとても複雑な意味があるように思う。

untitled

虹は国によって色の数が違う。色弱の友人は炒め物をきつね色にできない。複雑な物事を人に伝える場合、別のものに置き換えてシンプルに伝えることが出来ないかと考えるのですが、置き換えが上手くいくと複雑さが解けるように感じます。

chart / vektor

道に迷った時に倒して行き先を決める棒。何かを道具に託すという行為は普遍的なもので自分にも理解出来るし、世界中で昔からある方法だろう。道端に落ちているただの枝でも何でも良いのだが、託される事柄によってものの質が変わるように思う。

道具の話

私は選択するという行為が、条件に合ったものを取り上げることだけでなく何か他の意味を含んでいるように感じている。選択を繰り返すことで、自分のなかに漠然とある可能性のようなものを分類し整理しているのかもしれない。